

弘法大師像



奥の院後方の弘法大師像

空海（くうかい）774年 -835年4月22日 平安時代初期の僧

遣唐使として

804年（30歳）正規の遣唐使の留学僧（留学期間20年の予定）として唐に渡る。入唐直前まで一私度僧であった空海が突然留学僧として浮上する過程は、今日なお謎を残している。

第16次遣唐使一行には、空海と最澄がいた。最澄はこの時期すでに天皇の護持僧である内供奉十禅師の一人に任命されており、当時の仏教界に確固たる地位を築いていたが、空海はまったく無名の一沙門だった。今風に言えば最澄は国費留学僧で空海は私費留学僧である。

804年5月12日難波津を出航、博多を經由し7月6日、肥前国松浦郡田浦から唐へ向け出港した。空海は第1船、最澄は第2船に乗船し無事唐にたどり着いた。第3船、第4船は遭難した。空海の乗った船も、嵐にあい大きく航路を逸れて**804年8月10日**、福州長溪県赤岸鎮に**漂着**。

（出港から約3ヶ月間）海賊の嫌疑をかけられ、疑いが晴れるまで約50日間待機させられる。

804年11月3日に長安入りを許され、**804年12月23日**に長安に入った。

805年2月（日本を出て約8ヶ月）西明寺に入り滞在し、空海の長安での住居となった。

長安で空海が師事したのは、まず醴泉寺のインド僧般若三蔵。

密教を学ぶために必須の**梵語に磨き**をかけたものと考えられている。空海はこの般若三蔵から梵語の経本や新訳經典を与えられている。

805年5月になると空海は、密教の第七祖である唐長安青龍寺の**惠果和尚**を訪ね、以降約半年に亘って師事することになる。惠果和尚は自分の死が近いことを悟りこの短期間に真言密教の全てを弘法大師に教え、「君は早く日本に帰国して仏教を広めよ」と

805年12月15日、惠果和尚が**60歳**で入寂。（約半年間真言密教を学ぶ）

806年1月17日、空海は全弟子を代表して和尚を顕彰する碑文を起草した。

805年3月に長安を出発し、4月には越州に到り4か月滞在した。

ここでは土木技術や薬学をはじめ多分野を学び、經典などを収集した。

805年8月に明州を出航して、帰国の途についた。（漂着後約1年唐に滞在した）

途中、**暴風雨に遭遇**し、**五島列島福江島玉之浦の大宝港**に寄港、そこで真言密教を開宗した為、後に**大宝寺は西の高野山**と呼ばれるようになった。福江の地に本尊・虚空蔵菩薩が安置されていると知った空海が参籠し、満願の朝には明星の奇光と瑞兆を拝し、異国で修行し真言密教が日本の鎮護に効果をもたらす証しであると信じ、寺の名を明星院と名づけたという。

806年10月、空海は無事帰国し、**大宰府に滞在**する。

空海が唐から持ち帰った物は『請来目録』によれば、多数の經典類両部大曼荼羅、祖師図、密教法具、阿闍梨付属物など膨大なものである。

空海は、20年の留学期間を**2年**で切り上げ帰国したため、当時の規定ではそれは闕期（けつご）の罪にあたとされた。**806年10月の帰国後は、入京の許しを待って数年間大宰府に滞在**することを余儀なくされた。

807年より2年ほどは大宰府・観世音寺に止住している。この時期空海は、個人の法要を引き受け、その法要のために密教図像を制作するなどをしていた。

809年空海は、まず和泉国槇尾山寺に滞在し**7月の太政官符を待って入京**、和気氏の私寺であった**高雄山寺（後の神護寺）**に入った。

816年6月19日、修禪の道場として高野山の下賜を請い、7月8日には、高野山を下賜する旨勅許を賜る。817年泰範や実恵ら弟子を派遣して高野山の開創に着手し、818年11月には、空海自身が勅許後はじめて高野山に登り翌年まで滞在した。819年春には七里四方に結界を結び、伽藍建立に着手した。

帰国後約30年間仏教を広めた

835年高野山で弟子達に遺告を与え、**3月21日に入滅**した。享年62（満60歳没）。

四国八十八か所

弘法大師生誕地は 香川県善通寺市にある真言宗 善通寺派の総本山 75番札所**善通寺**である。故郷の四国において彼が山岳修行時代に遍歴した霊跡は、四国八十八箇所にて代表されるような霊場として残り、それ以降霊場巡りは幅広く大衆の信仰を集めている。

十夜ヶ橋（愛媛県大洲市）

今から約1,200年前、弘法大師が四国各地を行脚する途中大洲地方に立ち寄りました。しかし宿をとろうにも泊めてもらえる家がありませんでした。仕方なく大師は小川にかかる橋の下で野宿をされました。寒さに震えながら一夜を過ごしたが、その時の夜の長さを大師は

「ゆきなやむ浮世の人を渡さずば 一夜も十夜の橋と思ほゆ」と詠じ、

次の地に旅立ったといわれます。

お遍路さんが橋の上を通る時は、杖をつかないという風習はこの話から起こったものです。



変わった風習は 一つだけ許される盗み

三角寺（65番）に伝わる話は『寺の台所から「しゃもじ」を盗んで帰ると子が授かる』というものです。ご本尊に免じてたった一つ許される盗みだそうです。ただし無事子供を授かったあかつきには、次の人の為に新品のしゃもじを2本持ってお礼参りをするのが決まりだそうです。

仏教と真言宗

仏教は、今から 2500 年ほど前にインドでお釈迦さまが悟りを開かれ仏陀となられたことを出発点としています。ですから仏教とは、その「仏陀の教え」ということになります。

またその教えは、修行によって人間の苦しみを解決する教えでもあります。

その意味では、仏教とは「仏陀になるための教え」でもあります。

インドで生まれた仏教は、やがて中央アジアを通して中国・モンゴルなどに伝わり(北伝仏教)、その後、朝鮮半島を経由して 6 世紀頃 (538 年) 日本に伝来しました。またインドからセイロン(現スリランカ)に伝わった仏教は、11 世紀にはビルマ(現ミヤンマー)やタイへ伝わるようになります(南伝仏教)。このように仏教は世界各地へ広がりますが、弘法大師・空海によって開かれた真言宗は、仏教の中でも特に密教であるといわれます。

密教とは「仏さまの秘密の教えを明らかにした教え」という意味ですが、この教えはお釈迦さま在世時代のインドにすでに存在し、それが 7 世紀ごろに段々と体系化され、8 世紀には中国やチベットに伝わったといわれます。

そしてこの教えが弘法大師により日本に伝えられ、真言宗となるのです。

真言宗と宗祖・弘法大師

弘法大師・空海(774-835)は、宝亀(ほうき)5年6月15日、現在の香川県善通寺市に生まれる。15歳で都に上り、18歳の時に大学に入学。

大学では中国の哲学、思想を学ぶが、やがて立身出世を目的とした大学の学問に疑問を感じる。そして 24 歳の時「仏教こそが最高の教えである」という考えをまとめた『三教指帰(さんごうしいき)』を著すと、山野を巡り修行する出家修行者となり、各地で厳しい修行を重ねた。

そしてある夜、大和国久米寺の東塔の下に仏教の究極の教えである密教を説いたお経、『大毘盧遮那成仏神変加持経』(だいびるしゃなじょうぶつじんぺんかじきょう=略称は『大日経』)があることを夢で知り、この地を訪ね『大日経』にめぐりあいました。

しかし『大日経』を読んでもその意味は十分にわからず、かといって、その疑問に答えてくれる師は日本にはいません。

そこで師を求め、唐(現在の中国)の都・長安へ留学することを決心したのです。

804年7月、31歳のお大師さまは九州長崎の松浦郡田の浦から遣唐使船に乗り長安をめざします。海上での暴風雨、長い陸路の旅など幾多の苦難に遭遇しますが、出帆して半年後、やっと唐の都・長安に到着します。長安では密教の師を求めて諸寺を歴訪し、ついに正統な密教を受け継ぐ唯一の僧侶、青龍寺(しょうりゅうじ)の恵果阿闍梨(けいかあじゃり)に巡りあいます。

恵果阿闍梨は自らが受け継いだすべての教え、そして密教の奥義を余すところなくお大師さまに伝え、ここにお大師さまは密教の正統な後継者となるのでした。

全てを伝えた恵果和尚は「一刻も早く日本に帰り、密教を広め人々を幸福にするように」とお大師さまにすすめます。

そこでお大師さまは 20 年間の留学僧としての勤めを 2 年足らずで切り上げ帰朝するのです。

帰朝後は、恵果阿闍梨の教えどおり真言宗を立教開宗し、京都の教王護国寺(東寺)、和歌山の高野山を拠点として活躍します。

その活動は、宗教活動はもとより、社会活動や文芸活動、書など多岐にわたり、偉大な足跡を残されたのでした。

そして 835 年 3 月 21 日、高野山で 62 歳のご生涯を終え、入定されるのです。